

公表

事業所における自己評価結果（放課後等デイサービス）

事業所名		児童デイサービス えがお第3				公表日	令和 8 年 2 月 16 日
		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点	
環境・体制整備	1	利用定員が発達支援室等のスペースとの関係で適切であるか。	7	1	人数に合わせて、支援室や個室を使う工夫がある。	大きなスペースが1つしかないため、特に長期休暇は限られたスペースになるため、児童もストレスになるかと思う。庭のスペースが少し狭く感じる。	
	2	利用定員やこどもの状態等に対して、職員の配置数は適切であるか。	8		状況に応じて職員配置を変える工夫がある。		
	3	生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっているか。また、事業所の設備等は、障害の特性に応じ、バリアフリー化や情報伝達等、環境上の配慮が適切になされているか。	7	1	写真を貼るなど、視覚支援の工夫がある。	分かりやすいが死角も多いと思う。	
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、こども達の活動に合わせた空間となっているか。	7	1		場所によっては危ないと思うところがある。	
	5	必要に応じて、こどもが個別の部屋や場所を使用することが認められる環境になっているか。	8		集中して宿題をしたい時や気持ちの切り替え時（クールダウン）など、複数の個室の部屋が設けられており、活用している。		
業務改善	6	業務改善を進めるためのPDCA サイクル（目標設定と振り返り）に、広く職員が参画しているか。	8				
	7	保護者向け評価表により、保護者等の意向等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	8				
	8	職員の意見等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	8		提案シートの記入や改善検討を行なっている。		
	9	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか。	6	2		分からない。	
	10	職員の資質の向上を図るために、研修を受講する機会や法人内等で研修を開催する機会が確保されているか。	8		zoom研修や対面研修の実施がある。		
適切な支援	11	適切に支援プログラムが作成、公表されているか。	8				
	12	個々のこどもに対してアセスメントを適切に行い、こどもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成しているか。	8		ケース会議等で1人1人話せる時間がある。		
	13	放課後等デイサービス計画を作成する際には、児童発達支援管理責任者だけでなく、こどもの支援に関わる職員が共通理解の下で、こどもの最善の利益を考慮した検討が行われているか。	8				
	14	放課後等デイサービス計画が職員間に共有され、計画に沿った支援が行われているか。	8				
	15	こどもの適応行動の状況を、標準化されたツールを用いたフォーマルなアセスメントや、日々の行動観察なども含むインフォーマルなアセスメントを使用する等により確認しているか。	8				
	16	放課後等デイサービス計画には、放課後等デイサービスガイドラインの「放課後等デイサービスの提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」及び「地域支援・地域連携」のねらい及び支援内容も踏まえながら、こどもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか。	8				
	17	活動プログラムの立案をチームで行っているか。	8		職員全員で案を出し合い、担当の職員がまとめている。		

支援の提供	18	活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか。	8			
	19	こどもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせ放課後等デイサービス計画を作成し、支援が行われているか。	8		個別・集団でそれぞれにあった支援を行なうことができています。	
	20	支援開始前には職員間で必ず打合せを行い、その日行われる支援の内容や役割分担について確認し、チームで連携して支援を行っているか。	8		朝礼での周知のおかげで、支援しやすい環境をつくれる工夫がある。	
	21	支援終了後には、職員間で必ず打合せを行い、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか。	7	1		
	22	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか。	8		記録を記入後、他の職員に分かるよう見返すことが出来る工夫がある。	
	23	定期的にモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断し、適切な見直しを行っているか。	8		児童の様子を全体で話しながら、必要な見直しを行ない周知出来ている。	
	24	放課後等デイサービスガイドラインの「4つの基本活動」を複数組み合わせさせて支援を行っているか。	8			
	25	こどもが自己選択できるような支援の工夫がされている等、自己決定をする力を育てるための支援を行っているか。	8			
関係機関や保護者との連携	26	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議や関係機関との会議に、そのこどもの状況をよく理解した者が参画しているか。	8			
	27	地域の保健、医療（主治医や協力医療機関等）、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携して支援を行う体制を整えているか。	6	2		分からない。
	28	学校との情報共有（年間計画・行事予定等の交換、こどもの下校時刻の確認等）、連絡調整（送迎時の対応、トラブル発生時の連絡）を適切に行っているか。	8			
	29	就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定子ども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めているか。	8			
	30	学校を卒業し、放課後等デイサービスから障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等しているか。	7			
	31	地域の児童発達支援センターとの連携を図り、必要等に応じてスーパーバイズや助言や研修を受ける機会を設けているか。	5	1		分からない。
	32	放課後児童クラブや児童館との交流や、地域の他のこどもと活動する機会があるか。	6	1	他の事業所との交流を行なった。	
	33	（自立支援）協議会等へ積極的に参加しているか。	3	4		していない。して良いと思う。
	34	日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの発達の状況や課題について共通理解を持っているか。	8			
	35	家族の対応力の向上を図る観点から、家族に対して家族支援プログラム（ペアレント・トレーニング等）や家族等の参加できる研修の機会や情報提供等を行っているか。	5	7		
	36	運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか。	8			
	37	放課後等デイサービス提供を作成する際には、こどもや保護者の意思の尊重、こどもの最善の利益の優先考慮の観点を踏まえて、こどもや家族の意向を確認する機会を設けているか。	8			
	38	「放課後等デイサービス計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から放課後等デイサービス計画の同意を得ているか。	8			
	39	家族等からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、面談や必要な助言と支援を行っているか。	8			

保護者への説明等	40	父母の会の活動を支援することや、保護者会等を開催する等により、保護者同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。また、きょうだい同士で交流する機械を設ける等の支援をしているか。	2	5	兄弟での受け入れもあるため、活動での交流をすることが出来る。	
	41	こどもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、こどもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応しているか。	8			
	42	定期的に通信等を発行することや、HPやSNS等を活用することにより、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報をこどもや保護者に対して発信しているか。	8		SNSの定期的な更新や保護者に活動予定を配布するなど、情報発信を行なっている。	
	43	個人情報の取扱いに十分留意しているか。	8		児童の活動写真等は、こまめに削除している。	
	44	障害のあるこどもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか。	8			
	45	事業所の行事に地域住民を招待する等、地域に開かれた事業運営を図っているか。	4	4	職員と児童で事業所周辺の清掃活動をする際に、地域の方と交流がある場合もある。	
非常時等の対応	46	事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や家族等に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施しているか。	8			
	47	業務継続計画（BCP）を策定するとともに、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか。	7	1	災害時を想定した避難訓練を実施している。	BCPあったように思うが、良く把握できていない。
	48	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等のこどもの状況を確認しているか。	8		保護者の方への確認・服薬依頼書等で全体での周知を行なっている。	
	49	食物アレルギーのあるこどもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか。	8			
	50	安全計画を作成し、安全管理に必要な研修や訓練、その他必要な措置を講じる等、安全管理が十分された中で支援が行われているか。	8		定期的に事故防止チェックリストを実施している。	
	51	こどもの安全確保に関して、家族等との連携が図られるよう、安全計画に基づく取組内容について、家族等へ周知しているか。	8			
	52	ヒヤリハットを事業所内で共有し、再発防止に向けた方策について検討をしているか。	8		月に1回研修を実施し、全職員への周知・検討を行なっている。	
	53	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか。	8		月に1回研修を実施し、全職員への周知・検討を行なっている。	
54	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、こどもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載しているか。	8			対象児童なし	

公表

保護者等からの事業所評価の集計結果（放課後等デイサービス）

事業所名 児童デイサービス えがお第3

公表日 令和8年 2 月 16 日

利用児童数 9人 令和8年 1 月 20 日

回収数 9

	チェック項目	はい	どちらとも いえない	いいえ	わからない	ご意見	ご意見を踏まえた対応
環境・ 体制 整備	1 子どもの活動等のスペースが十分に確保されていると思いますか。	8			1		
	2 職員の配置数は適切であると思いますか。	8			1		
	3 生活空間は、子どもにわかりやすく構造化された環境になっていると思いますか。また、事業所の設備等は、障害特性に応じて、バリアフリー化や情報伝達等への配慮が適切になされていると思いますか。	7				2	
	4 生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっていると思いますか。また、子ども達の活動に合わせた空間となっていると思いますか。	7	1			1	
適切 な 支 援 の 提 供	5 子どものことを十分に理解し、子どもの特性等に応じた専門性のある支援が受けられていると思いますか。	9					
	6 事業所が公表している支援プログラムは、事業所の提供する支援内容と合っていると思いますか。	7	1		1		
	7 子どものことを十分理解し、子どもと保護者のニーズや課題が客観的に分析された上で、放課後等デイサービス計画（個別支援計画）が作成されていると思いますか。	9					
	8 放課後等デイサービス計画には、放課後等デイサービスガイドラインの「放課後等デイサービスの提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」で示す支援内容から子どもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されていると思いますか。	7	1		1		
	9 放課後等デイサービス計画に沿った支援が行われていると思いますか。	7	1				
	10 事業所の活動プログラムが固定化されないよう工夫されていると思いますか。	7	1		1		
	11 放課後児童クラブや児童館との交流や、地域の他の子どもと活動する機会がありますか。	6	1		2		
保 護 者 へ の 説 明 等	12 事業所を利用する際に、運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明がありましたか。	8	1				
	13 「放課後等デイサービス計画」を示しながら、支援内容の説明がなされましたか。	9					
	14 事業所では、家族に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)や家族等も参加できる研修会や情報提供の機会等が行われていますか。	4	2	1	2		
	15 日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの健康や発達状況について共通理解ができていると思いますか。	8	1				
	16 定期的に、面談や子育てに関する助言等の支援が行われていますか。	8		1			
	17 事業所の職員から共感的に支援をされていると思いますか。	9					
	18 父母の会の活動の支援や、保護者会等の開催等により、保護者同士の交流の機会が設けられるなど、家族への支援がされているか。また、きょうだい向けのイベントの開催等により、きょうだい同士の交流の機会が設けられるなど、きょうだいの支援がされていますか。	6		1	3		
19 子どもや家族からの相談や申入れについて、対応の体制が整備されているとともに、子どもや保護者に対してそのような場があることについて周知・説明され、相談や申入れをした際に迅速かつ適切に対応されていますか。	6		1	2			

	20	子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮がなされていると思いますか。	8			1		
	21	定期的に通信やホームページ・SNS等で、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報や業務に関する自己評価の結果を子どもや保護者に対して発信されていますか。	9					
	22	個人情報の取扱いに十分に留意されていると思いますか。	8			1		
非常時等の対応	23	事業所では、事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等が策定され、保護者に周知・説明されていますか。また、発生を想定した訓練が実施されていますか。	8			1		
	24	事業所では、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練が行われていますか。	8			1		
	25	事業所より、子どもの安全を確保するための計画について周知される等、安全の確保が十分に行われた上で支援が行われていると思いますか。	7			1		
	26	事故等（怪我等を含む。）が発生した際に、事業所から速やかな連絡や事故が発生した際の状況等について説明がされていると思いますか。	8	1				
満足度	27	子どもは安心感をもって通所していますか。	9					
	28	子どもは通所を楽しみにしていますか。	8	1				
	29	事業所の支援に満足していますか。	8	1				

公表

事業所における自己評価総括表（放課後等デイサービス）

○事業所名	児童デイサービスえがお第3		
○保護者評価実施期間	令和7年 4月 1日		～ 令和7年 11月 30日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	9人	(回答者数) 9人
○従業者評価実施期間	令和7年 4月 1日		～ 令和7年 11月 30日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	8人	(回答者数) 8人
○事業者向け自己評価表作成日	令和8年 1月 27日		

○ 分析結果

	事業所の強み（※）だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	定期的にSNSを通じて子どもの活動の様子を発信したり、保護者へ毎日子どもの様子を写真等で共有している。	行事だけではなく、事業所での子ども様子を保護者の方と常に共有できるよう、写真送付を毎日行なっている。また、送迎時などその日の出来たことや喜びを共有出来るよう努めている。	SNSを用いて事業所のことを知って貰えるよう、定期的な発信を継続していくと共に、楽しんで見て貰えるよう内容も工夫していく。
2	支援にあたる職員の職種も様々であり、子どもの発達に合わせた支援や色々な観点での支援を行なうことができる。	個別支援計画の目標に沿って、各専門分野にて支援内容を考え、実行に努めている。また、活動内での気づきは、職員間で共有し、共通理解に努め、次の活動や支援に活かせるようにしている。	継続して支援していくと共に、子どもの様子を情報共有しながら、課題を明確にして、子どもの成長や自信に繋げていけるように努めます。
3			

	事業所の弱み（※）だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	多機能型のため、長期休暇等になると児童発達支援の児童と利用時間が重なる時間帯があるため、支援を行なう上で、制限が出てしまう。スペースの確保が難しい。	長期休暇等は、活動を行なう上でも、職員の配置人数にも限りがある。	活動を組む際に、活動を行なう時間帯を分けるなど配慮が必要となる。 縦割りでの関わりが出来るような活動を取り入れていく。
2			
3			

公表

事業所における自己評価結果（児童発達支援）

事業所名	児童デイサービスえがお第3		公表日		令和8年2月16日	
	チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点	
環境・体制整備	1	利用定員が発達支援室等のスペースとの関係で適切であるか。	7	1	支援室を複数名で使用する時は、各コーナーを作って、部屋を仕切るなど工夫している。	児童数に対し、午睡をする部屋が手狭に感じることがある。 スペースが少なく感じることもある。
	2	利用定員やこどもの状態等に対して、職員の配置数は適切であるか。	6	2	一対一での支援や状況に応じて配置を変えるなどの工夫がある。	急なお休みや児童の利用数の変動が大きく予定通りにいかない部分がある。 定員内であっても、対応に困ることもある。 送迎時のタイミングで、職員数が少なくなり、“見守る”ことしか出来ない時がある。
	3	生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっているか。また、事業所の設備等は、障害の特性に応じ、バリアフリー化や情報伝達等、環境上の配慮が適切になされているか。	7	1	日々の生活の中で、改善点が見つければ、共有し、配置や表記の仕方を工夫している。 写真等で視覚的な支援もある。	基本的に建物内はバリアフリーで作られているが、玄関の段差やキッチンなど危ないと感じることはある。 死角も多いと思う。
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、こども達の活動に合わせた空間となっているか。	7	1	各職員、それぞれの活動に応じて空間を使い分けている。 朝の5分間清掃や送迎後の清掃等を行っている。	キッチンが下駄箱と隣り合わせであることが衛生面で気になる。
	5	必要に応じて、こどもが個別の部屋や場所を使用することが認められる環境になっているか。	8		集中して活動をしたい時や気持ちを切り替える時など、複数の個別の部屋が設けられているので、活用し対応している。	
業務改善	6	業務改善を進めるためのPDCAサイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画しているか。	8		法人会議や各事業所の職員会議への参加。 また、リモートでの参加も出来るので、全体で取り組んでいる。	
	7	保護者向け評価表により、保護者等の意向等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	8		会議での意見や提案シートの提出で内容を全体で検討・改善出来ている。	
	8	職員の意見等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	8		1人1人の意見を汲み取り、定期的に協議し合う場がある。	
	9	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか。	7			
	10	職員の資質の向上を図るために、研修を受講する機会や法人内等で研修を開催する機会が確保されているか。	8		研修を受講する機会が全職員へある。 Zoom等を用いた研修があり、簡単に受講できる工夫がある。	
適切な支援の	11	適切に支援プログラムが作成、公表されているか。	8			
	12	個々のこどもに対してアセスメントを適切に行い、こどもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、児童発達支援計画を作成しているか。	8			
	13	児童発達支援計画を作成する際には、児童発達支援管理責任者だけでなく、こどもの支援に関わる職員が共通理解の下で、こどもの最善の利益を考慮した検討が行われているか。	8		ケース会議等で1人1人じっくり話し合える時間がある。	
	14	児童発達支援計画が職員間に共有され、計画に沿った支援が行われているか。	8		co-miiの導入により、職員間での共有が図れている。 支援の継続等、会議での話し合いで周知することができている。	
	15	こどもの適応行動の状況を、標準化されたツールを用いたフォーマルなアセスメントや、日々の行動観察なども含むインフォーマルなアセスメントを使用する等により確認しているか。	8			
	16	児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」及び「地域支援・地域連携」のねらい及び支援内容も踏まえながら、こどもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか。	7		子ども一人一人に沿った支援内容で支援していける工夫がある。	
	17	活動プログラムの立案をチームで行っているか。	8		職員全員で話し合う時間が設けられ、全体で立案出来ている。	

提 供	18	活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか。	8		毎月全職員で案を出し合い、担当職員がまとめ立案している。違った視点や見方を工夫されていて、お互いに勉強になる。また、内容が重ならないよう工夫されている。		
	19	こどもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせる児童発達支援計画を作成し、支援が行われているか。	8		活動案に沿って、個別・集団に偏りが無いように、工夫されている。		
	20	支援開始前には職員間で必ず打合せを行い、その日行われる支援の内容や役割分担について確認し、チームで連携して支援を行っているか。	8		朝礼での、送迎報告や支援内容の周知のおかげで、支援のしやすい環境を作りやすい工夫がある。		
	21	支援終了後には、職員間で必ず打合せを行い、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか。	6	2	朝礼を通して、各児童への支援内容を周知し合っている。個別支援への記録や保護者伝達への共有で、子どもの様子が共有できている。	その日すぐに支援の振り返りをするのは難しいと感じる。但し、個別支援の記録等があるため、共有できたり、職員間で話し合いは出来ている。	
	22	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか。	8		担当があるため、記録の記入等もしやすい工夫がある。		
	23	定期的にモニタリングを行い、児童発達支援計画の見直しの必要性を判断し、適切な見直しを行っているか。	8		連絡帳、個別支援のファイルに日々記録し、お互いに共有し合っている。		
関 係 機 関 や 保 護 者 と の 連 携	24	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議や関係機関との会議に、そのこどもの状況をよく理解した者が参画しているか。	8				
	25	地域の保健、医療（主治医や協力医療機関等）、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携して支援を行う体制を整えているか。	7	1		保育所等訪問支援を実施している。	
	26	併行利用や移行に向けた支援を行うなど、インクルージョン推進の観点から支援を行っているか。また、その際、保育所や認定こども園、幼稚園、特別支援学校(幼稚部)等との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っているか。	8				
	27	就学時の移行の際には、小学校や特別支援学校(小学部)との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っているか。	8				
	28	(28～30は、センターのみ回答)					
		地域の他の児童発達支援センターや障害児通所支援事業所等と連携を図り、地域全体の質の向上に資する取組等を行っているか。					
	29	質の向上を図るため、積極的に専門家や専門機関等から助言を受けたり、職員を外部研修に参加させているか。					
	30	(自立支援)協議会こども部会や地域子ども・子育て会議等へ積極的に参加しているか。					
	31	(31は、事業所のみ回答)					
		地域の児童発達支援センターとの連携を図り、必要に応じてスーパーバイズや助言等を受ける機会を設けているか。	4	1			分からない。
32	保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、地域の中で他のこどもと活動する機会があるか。	3	5		公園遊びの際、地域の子どもの交流する場面はある。	ないと思う。	
33	日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの発達の状況や課題について共通理解を持っているか。	8			送迎時など、送迎者へ職員間の共有、保護者への伝達の流れがあり、共通理解出来るようにしている。		
34	家族の対応力の向上を図る観点から、家族に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)や家族等の参加できる研修の機会や情報提供等を行っているか。	3	3		保護者相談日を設けている。		
35	運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか。	8					
36	児童発達支援計画を作成する際には、こどもや保護者の意思の尊重、こどもの最善の利益の優先考慮の観点を踏まえて、こどもや家族の意向を確認する機会を設けているか。	8					

保護者への説明等	37	「児童発達支援計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から児童発達支援計画の同意を得ているか。	8			
	38	定期的に、家族等からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、面談や必要な助言と支援を行っているか。	8			
	39	父母の会の活動を支援することや、保護者会等を開催する等により、保護者同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。また、きょうだい同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。	1	6	兄弟での受け入れもあるため、活動での交流も多いと感じる。	
	40	こどもや保護者からの相談や申入れについて、対応の体制を整備するとともに、こどもや保護者に周知し、相談や申入れがあった場合に迅速かつ適切に対応しているか。	8		朝礼等での報告、周知できる環境の工夫がある。 保護者相談日を設けている。	
	41	定期的に通信等を発行することや、HPやSNS等を活用することにより、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報をこどもや保護者に対して発信しているか。	8		保護者へ毎日活動の様子の写真送付を行ったり、SNS等で活動の様子を発信している。	
	42	個人情報の取扱いに十分留意しているか。	8		こまめに写真の削除等を行なっている。	
	43	障害のあるこどもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか。	8		送迎での保護者対応等、伝達に漏れがないようメモを取るなど工夫している。	
	44	事業所の行事に地域住民を招待する等、地域に開かれた事業運営を図っているか。	3	5	定期的に地域清掃を行っている。	
非常時等の対応	45	事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や家族等に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施しているか。	8		緊急時を想定した避難訓練などを実施している。	
	46	業務継続計画（BCP）を策定するとともに、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか。	8		津波・地震等の非常時の訓練を定期的実施している。	
	47	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等のこどもの状況を確認しているか。	8		服薬依頼書等で全体に周知出来るよう工夫されている。	
	48	食物アレルギーのあるこどもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか。	8			
	49	安全計画を作成し、安全管理に必要な研修や訓練、その他必要な措置を講じる等、安全管理が十分された中で支援が行われているか。	8			
	50	こどもの安全確保に関して、家族等との連携が図られるよう、安全計画に基づく取組内容について、家族等へ周知しているか。	8		避難訓練実施時など、保護者への連絡をして知らせ、周知している。	
	51	ヒヤリハットを事業所内で共有し、再発防止に向けた方策について検討をしているか。	8		毎月1回、研修を実施している。	
	52	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか。	8		毎月1回、研修を実施している。	
53	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、こどもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、児童発達支援計画に記載しているか。	8			対象児童なし。	

公表

保護者等からの事業所評価の集計結果（児童発達支援）

事業所名 児童デイサービスえがお第3

公表日 令和8年2月16日

利用児童数 9人 令和8年1月20日 回収数 9

		チェック項目					ご意見	ご意見を踏まえた対応
			はい	どちらとも いえない	いいえ	わからない		
環境・ 体制 整備	1	こどもの活動等のスペースが十分に確保されていると思いますか。	9				ホール（支援室）と個室があり、活動スペースとしては、十分にあると感じる。	必要に応じて、個別での活動や小集団での活動が出来るよう、環境の工夫に努めます。
	2	職員の配置数は適切であると思いますか。	9				子ども一人に対し、1人の先生が配置されているので、安心感がある。	今後も年齢や児童の様子に合わせて、職員の配置を適切に行います。
	3	生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっていると思いますか。また、事業所の設備等は、障害特性に応じて、バリアフリー化や情報伝達等への配慮が適切になされていると思いますか。	8			1		
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっていると思いますか。また、こども達の活動に合わせた空間となっていると思いますか。	9				とても明るく開放的な空間な支援室と園庭もあり、個室もあるので良いと思う。	毎日の清掃とその日の活動に合わせた環境整備を今後も継続していきます。
適切 な 支 援 の 提 供	5	こどものことを十分に理解し、こどもの特性等に応じた専門性のある支援が受けられていると思いますか。	9				先生一人一人が、子どもに対しての理解がすごくあると感じる。	今後も、職員間での情報共有を行ない、子ども一人一人に寄り添い支援していきます。
	6	事業所が公表している支援プログラムは、事業所の提供する支援内容と合っていると思いますか。	9					
	7	こどものことを十分理解し、こどもと保護者のニーズや課題が客観的に分析された上で、児童発達支援計画（個別支援計画）が作成されていると思いますか。	8			1		
	8	児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」で示す支援内容からこどもの支援に必要な項目が適切に選択され、その上で、具体的な支援内容が設定されていると思いますか。	9					
	9	児童発達支援計画に沿った支援が行われていると思いますか。	9					
	10	事業所の活動プログラムが固定化されないよう工夫されていると思いますか。	9				柔軟に対応していただき、工夫されていると感じる。	毎月様々な活動を取り入れ、子ども達が楽しめるよう工夫していきます。また、子どもの状況に合わせて、活動へ楽しく参加出来るよう配慮していきます。
保 護 者 へ の 説 明 等	11	保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、その他地域で他のこどもと活動する機会がありますか。	2	2	1	4		
	12	事業所を利用する際に、運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明がありましたか。	9					
	13	「児童発達支援計画」を示しながら、支援内容の説明がなされましたか。	9					
	14	事業所では、家族に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)や家族等も参加できる研修会や情報提供の機会等が行われていますか。	3	2	1	3		
	15	日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの健康や発達の状況について共通理解ができていますか。	8	1			子どもの事をちゃんと見て頂いているのが、すごく伝わってくる。共通理解が出来ていると思う。	職員間でも気付きや様子等の情報共有を行ない、送迎などを通して保護者の方にも共有を今後もしていきます。
	16	定期的に、面談や子育てに関する助言等の支援が行われていますか。	8	1				
	17	事業所の職員から共感的に支援をされていると思いますか。	9					
	18	父母の会の活動の支援や、保護者会等の開催等により、保護者同士の交流の機会が設けられるなど、家族への支援がされているか。また、きょうだい向けのイベントの開催等により、きょうだい同士の交流の機会が設けられるなど、きょうだいへの支援がされていますか。	3	1	2	3		
	19	こどもや家族からの相談や申入れについて、対応の体制が整備されているとともに、こどもや保護者に対してそのような場があることについて周知・説明され、相談や申入れをした際に迅速かつ適切に対応されていますか。	9				利用回数についての相談も迅速に受け入れてもらえた。	今後も保護者の方からの相談に対して、相談日など話し合いをする場を設けたり、速やかに対応していけるよう努めます。

	20	子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮がなされていると思いますか。	8	1			何かあった際は、子どもの様子をLINEですぐに報告してくれるので、すごく有難いです。	引き続き、緊急時だけでなく、日頃から送迎や保護者相談日等で保護者の方と情報共有に努めます。
	21	定期的に通信やホームページ・SNS等で、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報や業務に関する自己評価の結果を子どもや保護者に対して発信されていますか。	8	1				
	22	個人情報の取扱いに十分に留意されていると思いますか。	9					
非常時等の対応	23	事業所では、事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等が策定され、保護者に周知・説明されていますか。また、発生を想定した訓練が実施されていますか。	7			2		
	24	事業所では、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練が行われていますか。	7			3	避難訓練が定期的に行なわれている。	今後も継続し、非常災害等に備えた避難訓練等実施していきます。
	25	事業所より、子どもの安全を確保するための計画について周知される等、安全の確保が十分に行われた上で支援が行われていると思いますか。	9					
	26	事故等（怪我等を含む。）が発生した際に、事業所から速やかな連絡や事故が発生した際の状況等について説明がされていると思いますか。	9					
満足度	27	子どもは安心感をもって通所していますか。	9				親から見ても安心なくらい、子どもも安心感を持って通所している。	今後も保護者の方と協力し、児童が安心して通所出来るよう、柔軟な対応に努めます。
	28	子どもは通所を楽しみにしていますか。	9				先生がお迎えに来てくれるのを楽しみにしています。	今後も引き続き、来所を楽しみにしていただける活動等考案・実施していきます。
	29	事業所の支援に満足していますか。	9				活動や行事等の様子の動画等もあったら嬉しいです。	写真と一緒に様子の動画等も撮れた際は、保護者の方へ共有していきます。

公表

事業所における自己評価総括表（児童発達支援）

○事業所名	児童デイサービスがお第3		
○保護者評価実施期間	令和7年 4月 1日		～ 令和7年 11月 30日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	9人	(回答者数) 9人
○従業者評価実施期間	令和7年 4月 1日		～ 令和7年 11月 30日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	8人	(回答者数) 8人
○事業者向け自己評価表作成日	令和8年 1月 27日		

○ 分析結果

	事業所の強み（※）だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	保護者や利用児童の状況に応じて、利用日数の調整や支援に工夫が出来ていること。	定期的に保護者と事業所や家庭での様子を情報共有するように努めている。状況によっては、保護者相談日を設け話し合いをするようにしている。	今後も状況に応じて、利用児童の様子や保護者の希望があれば、利用日数の調整や相談日等を設けていく。
2	子どもの活動をする際は、支援室だけではなく、個室も完備しているため、集団活動や個別活動など活動の幅も広げて支援が行なえる。	活動に応じて、スペースを確保出来るよう、事前に職員間で話し合いを行なっている。	今後も、必要に応じて個室や支援室内を区切ったり、支援が行ないやすいよう環境を整えていく。
3			

	事業所の弱み（※）だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	利用児童が定員内であっても、多機能型のため、長期休み中など朝からの利用児童が多くなる。そのため、活動の制限が出てくる場合がある。	学校休業期間は、放課後等デイサービスの児童も朝からの利用になるため、部屋のスペース確保に限りが出てくる。 縦割りの関わりは出来るが、戸外活動等職員配置に困り出ることがある。	長期休み中は、同じ利用人数でも児童発達支援と放課後等デイサービスの利用時間が重なるため、職員の配置の配慮が必須となる。 戸外行事なども、午前と午後で活動を分けるなど工夫をしている。
2	玄関やトイレや個室に繋がる通路等死角になる場所もあり、危険とを感じる部分がある。	子どもの目線や高さで考えると、死角になる場所が意外と多い。 また、子どもの予測できない突発的な行動により、死角からの飛び出し等で衝突の危険性を感じる。	家具や廊下の角等、子どもの目線で危険を感じる場所にコーナガード等の設置。また、定期的に点検を行い職員間で事故防止に努める。
3			